



さまざまな体験活動を通して～百聞は一見にしかず～

校長 大平 紀博

6月も後半に入り、1学期も折り返しが過ぎ、あと1ヶ月で夏休みです。この間に、地区中体連総体も行われ、本校からはバドミントンと陸上に生徒が参加しました。それぞれの力をそして日頃の練習の成果を十分に発揮してくれたと思います。バドミントン部は夏の県大会へ向けて、吹奏楽部は7月23日の「夏の祭典」に向けてさらに練習を重ね頑張ってもらいたいと思います。

諺に「百聞は一見にしかず。」とあります。ご存じの通り百回聴くよりは自分自身で実際に1回見た方が経験としては優れているということでもあります。

5月28日から5月30日まで1年生は集団宿泊学習、2・3年生は修学旅行と生徒たちはそれぞれの学年段階の豊かな体験を味わったと思います。事前準備の学習を終えこの体験学習に臨みました。そして、保護者を迎えての発表会と体験だけではなく自分の振り返りを行うことで充実した体験活動になったと思っております。

また、3年生を中心に、上級学校説明会も多くの上級学校をお呼びして行います。それに先立つ全校朝会で「無理だとあきらめた瞬間に 人生の幅が決まる ここまでという線をつくってしまうと そこまでにしかならない ちょっとずつでいいから 無理だと思ふことに挑戦して 人生の幅を心の広さを ちょっとずつ大きくしていこう 線を越えるたびに 自分を信じれるから」というきむさんの詩を送りました。夢(目標)を持つことが大切です。そしてその夢の実現に向けて、まず自分で自分の限界点を勝手に決めて成長を止めないようにと話しました。

そして、米迫さんの田圃をお借りして山田中ならではの行事の田植えの体験も行いました。泥まみれになりながら夢中になって稲を植える姿を見て、山田校区ならではの自然の豊かさにどっぷりと浸ることができているなど感動するところでした。今後、秋の稲刈りそしてかかし祭りへの参加と地域との連携もさらに深めていきたいと思いました。

さらに、学校だけでなく地域活動や始良市の体験活動に参加している生徒もいます。今月はあいらぶサイエンス講座にも3人の生徒が参加しました。

これらの体験学習を良い機会に、一段とたくましくなっていく山田中生徒の姿が楽しみです。



人権コーナー



「子どもの人権SOSミニレター」

先日、鹿児島地方法務局・県人権擁護委員連合会より学校に、「子どもの人権SOSミニレター」が届き、子どもたちに配布しました。いじめや虐待など、子どもをめぐる様々な人権問題から子どもたちを守り、問題解決を図るための事業です。子どもたちには、抱える問題や悩みの解決に役立ててほしいと思いますが、まずは子どもたちが安心してSOSを出せる私たち身近な大人でありたいですね。



